

音声ストレージシステム

AirRec

取り扱い説明書

1. はじめに	3
概要.....	3
2. AirRec 録音ソフトウェア	4
セットアップ.....	4
画面.....	5
各種設定.....	5
モニター.....	8
ロック.....	9
録音する.....	10
html 出力.....	11
時刻較正.....	12
ファイルの補完.....	13
3. AirSrv サーバソフトウェア	14
セットアップ.....	14
画面.....	15
各種設定.....	15
4. AirPlay 再生ソフトウェア	17
セットアップ.....	17
Bravo のセットアップ.....	18
設定.....	20
再生する.....	26
範囲内操作.....	27
オーディオ CD 作成.....	28
AutoCD.....	29
オートマージ.....	32
ログ参照機能.....	34
バックアップ機能.....	35
ロック機能.....	36
監視機能.....	36
5. apax ブラウザ版 AirPlay	37
セットアップ.....	37
クライアント側セットアップ.....	38
操作画面.....	39
6. AirDist web ページ作成ソフトウェア	40
セットアップ.....	40
機能.....	40
画面.....	41
各種設定.....	41

1. はじめに

概要

AirRec は PC に音声を録音し、指定した日時の音声を再生するシステムです。

AirRec アプリケーションは最大 8 ステレオの音声を mp3 圧縮しながら保存し、html ページ作成などを行う機能も持ちます。

AirPlay は保存されているデータを継ぎ目なく再生するためのソフトウェアです。

APS 送出ログなどのテキストデータから時刻情報を取得してその位置からを再生する機能や、そのテキストデータとともに該当する日付のサウンドデータをバックアップする機能を持ちます。指定範囲を音声ファイルとして切り出したり、オーディオ CD 作成することもできます。

AirSrv は AirRec の録音したデータを随時取得し、再生端末に対してサーバーとなるリダイレクトサーバーソフトウェアです。AirRec は PC 処理の負荷が上がりすぎると音声処理が間に合わなくなる場合があります。社内 LAN に公開する場合や録音系統数が多い場合に使用をお勧めします。またバックアップ録音 PC が用意されている場合は、障害時の正副間での自動データ補完機能も持ちます。

apax は InterNetExplorer 上で動作するブラウザ版 AirPlay です。通常の簡易ブラウザ再生では出来ないシームレスな再生操作などが可能です。CD 作製や Bravo の制御など高度なクライアント機能は省略されています。

AirDist は AirPlay のオートマージ機能により出力された mp3 データへのリンクを含む web ページを作成/管理します。

クライアントに対する同録 CD 配布の変わりにネット経由での音声配布サポートするアプリです。

※ネット上での閲覧には FTP アップロード等に対応した同期アプリと web サーバスペースをご用意いただく必要があります。

各アプリ間のやり取りには Windows ファイル共有 SMB を利用します。

VPN などで接続されている場合は支店から接続して検聴なども可能です。

2. AirRec 録音ソフトウェア

セットアップ

動作環境

Windows7/8.1/10 が快適に動作する PC
接続される再生端末の数によって負荷が変わるのでシステム設計時にご相談ください。

同時に複数の系統の録音を行う場合には複数のステレオデバイスとして列挙されるオーディオIFが必要です。
(例:8入力の場合)

Input(1+2)

Input(3+4)

Input(5+6)

Input(7+8)

のようにコントロールパネル等で認識されている必要があります。

8 入力 × 1 デバイスのように認識されるオーディオ IF では 1 ステレオ入力しか使用できません。

	10 日	14 日	30 日	90 日	365 日
56kbps	7GB	9GB	19GB	55GB	230GB
96kbps	11GB	15GB	32GB	94GB	384GB
128kbps	14GB	19GB	42GB	125GB	505GB
160kbps	18GB	25GB	52GB	156GB	630GB
192kbps	21GB	30GB	63GB	187GB	760GB
256kbps	28GB	40GB	83GB	250GB	1TB
44.1kHz16bit Stereo	160GB	220GB	460GB	1.4TB	5.5TB
48kHz16bit Stereo	170GB	240GB	510GB	1.6TB	6.2TB

インストール

1. CD の内容を適当なフォルダにコピーします。
全てのファイルの属性から読取専用を解除します。
2. あらかじめオーディオカードが装着されている必要があります。
オーディオドライバーをセットアップします。

mp3 録音の場合

l3codecp.acm が使用できる状態である必要があります。

(Vista 以降は Windows に標準搭載されています。)

標準サウンドカードがセットアップされている必要があります。

3. keyXX.exe を実行して試用制限を解除できます。UAC が有効な場合は右クリックして「管理者として実行」を選択します。
keyXX.exe はライセンス毎に発行されるものです。第三者に利用されないよう注意してください。
4. airrec.exe がアプリケーション本体です。
初回は管理者として実行してください。
一般ユーザーとして実行すると mp3 エンコーダーの登録ができません。
また airrec アプリ内部の時刻較正機能を利用する場合は毎回管理者として起動する必要があります。
airrec.exe を右クリックして[プロパティ]→[互換性]→[管理者としてこのプログラムを実行する]を有効にします。

スタートアップで起動させたい場合は、実行ファイル側を管理者として起動するように設定し、それを指定したバッチファイルをスタートアップに登録します。C:\musicobo\airrec.exe 等アプリパスを一行だけ記述したテキストファイルを airrec.bat というファイル名のバッチファイルとして保存し、そのバッチファイルへのショートカットをスタートアップに入れます。

画面

インストールが終了し、アプリケーションが起動すると録音数と同じ数の録音ボタンが表示されます。



[設定]	設定選択画面を開きます。
[モニター]	モニター画面を表示させます。
[ロック]	パスワードロックを行います。
[リスト更新]	録音中の全チャンネルのファイルリストを更新します。

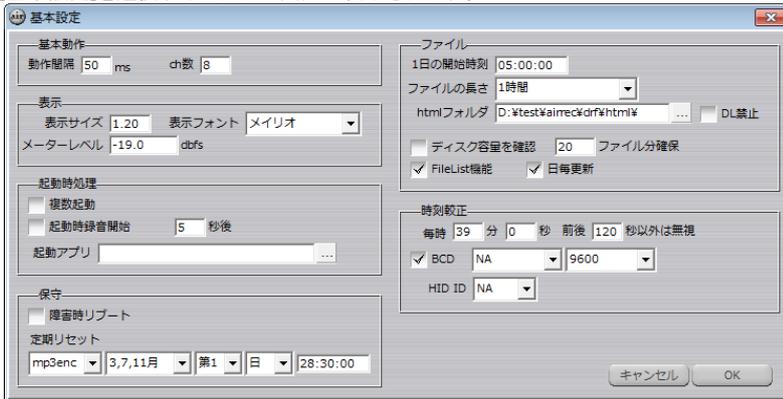
各種設定



[基本設定]	チャンネル数や時刻較正の設定を行います。
[ファイル設定]	録音データのパスなどを設定します。
[詳細設定]	録音ファイルのデータ形式を設定します。
[閉じる]	この画面を閉じます。

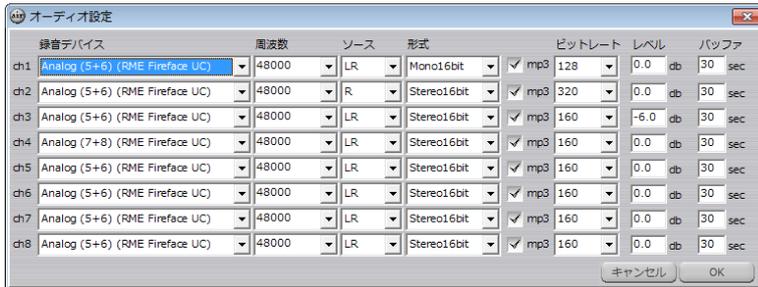
基本設定

[基本設定]を選択すると以下の画面が表示されます。



動作間隔	数字を小さくするほどアプリの動作速度が速くなりますが、PC 負荷が大きくなります。
ch 数	録音系統数の入力します。最大 40 まで設定可能ですが、安定動作を保障するわけではありません。
表示サイズ	メイン画面の部品の大さを比率で指定します。
表示フォント	表示に使用するフォントを選択します。
メーターレベル	メーターの赤くなる位置を dbfsRMS で指定します。
複数起動	アプリケーションの複数セッションを許可します。
起動時録音開始	起動から指定秒後に、録音フォルダが設定しているチャンネルについては録音開始します。
起動アプリ	AirRec が起動してから数秒後に指定のアプリケーションを起動させるランチャー機能です。時刻較正アプリなどを指定します。
障害時レポート	エンコーダーエラーが検出されたとき等に Windows 再起動を試行します。
定期リセット	4 あるいは 6 ヶ月に一度、mp3 エンコーダーリセットまたは PC のリポートを行います。時刻については[1 日の開始時刻]とは別のタイミングにしてください。1 日の開始時刻が 05:00:00 の場合は定期リセットは 28:30:00 等にします。
1 日の開始時刻	日付と時刻の調整を行います。050000 を指定すると 1 日は 5 時から 28:59:59 までとなります。この値は日時 の表示とファイル名に反映されます。システム運用中に変更すると過去のデータが呼び出せなくなることが あるので変更しないでください。
ファイルの長さ	ファイル生成の頻度を設定します。通常は 1 時間を選択します。
html フォルダ	html ファイルを作成するフォルダです。録音ディレクトリを重複させないで下さい。 ここに添付の index1.html、index2.html などをコピーしておきます。
ダウンロード禁止	生成される html ページにて右クリックを無効にします。
ディスク容量を確認	録音ディレクトリの容量を管理し古いファイルから削除します。これをオフにすると HDD がいっぱいになった ときにエラーが発生しますが、同一ドライブに複数 ch を録音する場合や、ファイル数の上限が HDD 容量に 対して余裕がある場合はオフにしてください。
(空き容量ファイル数)	常時何ファイル分の空き容量を確保するかを指定します。2 以上を入力してください。
FileList 機能	サーバーが保持している録音ファイル名をテキストに記録しクライアントの検索速度を速めます。
日毎更新	日替わりから数分後に、保持しているファイル内容を再チェックします。
時刻較正	マスター装置などから信号をもらい内部時計を較正します。
毎時 分 秒	参照する時刻を入力します。59 分 0 秒と入力すると、接点を受け取ったタイミングを 59 分 0 秒とみなします。 [前後 n 秒以外は無視]に 0 以上の数値を入れると、不用意な接点入力を無視することができます。 BCD シリアルモードの場合は 59 分 0 秒の信号を受け取ったときに修正を行います。 BCD を利用する場合はメイン画面に BCD の時刻も表示されます。
BCD	BCD シリアルによる時刻較正を行います。オフの場合は接点をシリアルに変換するオプションが必要です。
(シリアルポート)	Com ポート番号を選択します。
(Baud)	通信スピードです。 BCD シリアルでは 2400、接点をシリアルに変換するオプションを利用する場合はその仕様に合わせます。
HID ID	USB 接続の接点受信ボックスで時刻較正を行う場合に機器 ID を選択します。

オーディオ設定



録音デバイス	録音に使用するサウンドカード
周波数	録音サンプリング周波数
ソース/形式	[ソース]が LR、[形式]が Stereo の場合は通常のスtereoファイルが作成されます。 [ソース]が L、[形式]が Stereo の場合は入力 L 側音声が入力 L 側音声チャンネルに収録された stereoファイルが作成されます。 [ソース]が LR、[形式]が Mono の場合は入力音声の LR をミックスしたモノラルファイルが作成されます。 [ソース]が R、[形式]が Mono の場合は入力音声の R を録音したモノラルファイルが作成されます。
mp3	オフにするとニア wav 録音になります。
ビットレート	mp3 圧縮録音する場合のビットレート
レベル	録音レベルを db 単位で指定。デジタルレベル変更なので、歪み回避はできません。
バッファ	メモリ上に保持する録音データの長さを指定します。通常は 30 秒ほどにしてください。 ch 数が多い場合や、1 分以下のファイル作成などを行う場合は 3 秒程度まで短くします。値を大きくするほどメモリを多く使用しますが、OS 処理が滞った場合などの音切れを回避できます。

ファイル設定

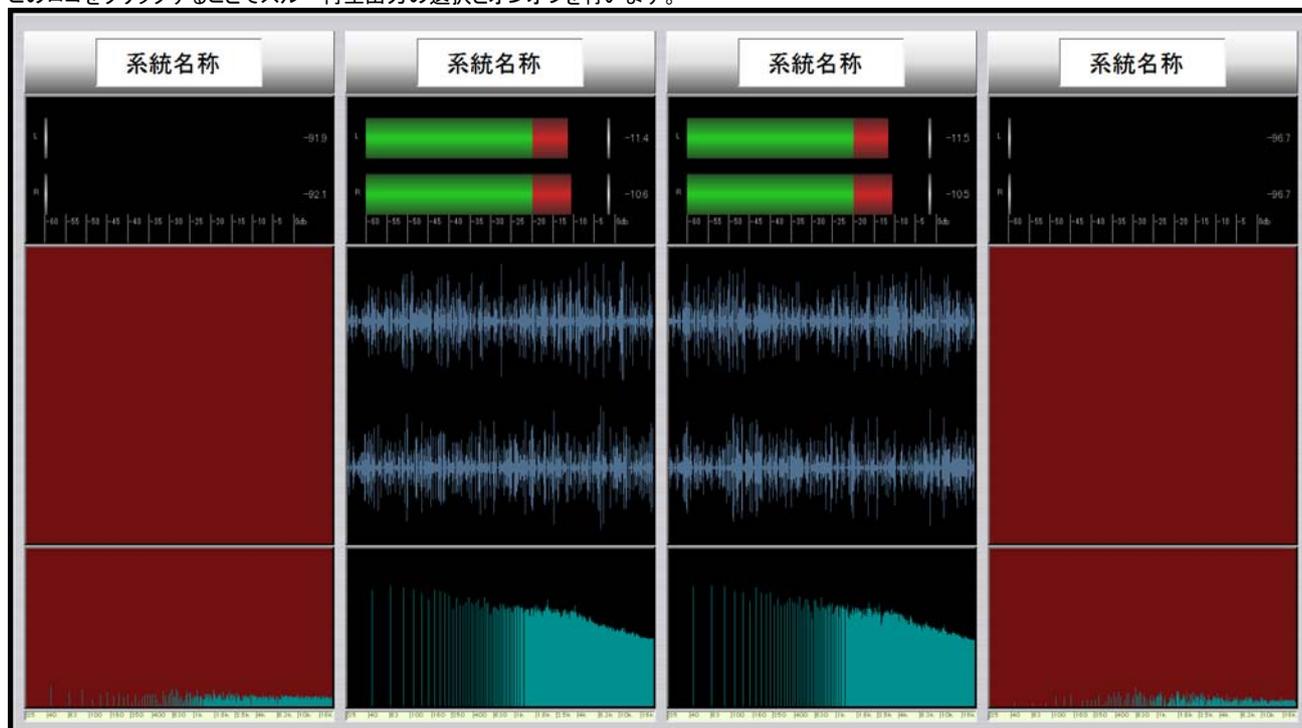


Ch	設定する録音システムを選択します。ボードの入力数以上はボタンが押せなくなっています。
名称	録音システムの名称です。
録音フォルダ	録音データをおくフォルダを指定します。各チャンネル最大 3 箇所設定できます。 各欄の右のボタンでフォルダ選択ダイアログが表示されます。 ディスク容量一杯まで録音する場合は同一ドライブは設定しないで下さい。 このフォルダ内に YYYYMMDDHHMMSS.mp3(または mp2/wav)の形式でファイルが作成されていきます。
html ディレクトリ	それぞれのディレクトリを表す文字列です。html ファイルの作成されるフォルダからの相対パスです。.././data1/ のような形式で入力します。 別途 http サーバーをセットアップする場合はその設定とあわせて下さい。
ファイル保持日数	録音ファイルの保存期間です。 この機能を利用しない場合は 0 を入力してください。
保持ファイル数	日数ではなくファイル数で保存ファイルを指定できます。 この機能を利用しない場合は 0 を入力してください。 [ファイル保持日数]、[保持ファイル数]をともに 0 にする場合は[詳細設定]の [ディスク容量チェック]を有効にしてください。

モニター

入力音声のメーター表示、波形表示、FFT 表示が出来る画面です。入力音声のスルー再生選択も可能です。音声のバイパス出力ではなく、アプリ側が受け取ったデータを再生処理するので、遅延が発生します。この画面は PC 負荷が高くなりますので、安定性を重視する用途の場合は表示させないでください。

アプリケーションフォルダに logo1.bmp、logo2.bmp、…という画像ファイルを置くとそれがロゴとして表示されます。このロゴをクリックすることでスルー再生出力の選択とオンオフを行います。



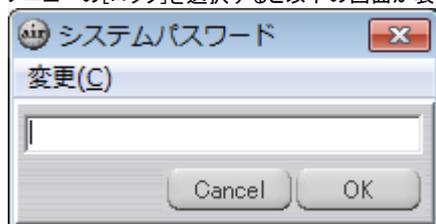
画面上で右クリックすると、設定画面が表示されます。



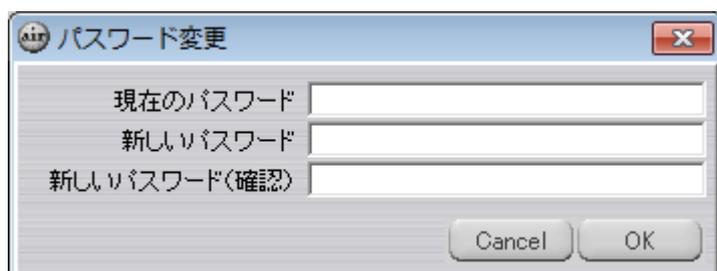
モニターデバイス	スルー再生するためのオーディオデバイス
列数	(例) 録音 ch 数が 6 の場合は、ここを 3 とすると 3×2 の画面分割で表示されます。
再生遅延 ms	これを少なくすると入力音声のスルー再生するときの遅延が短くなりますが、音切れしやすくなります。
ロゴ高さ	ロゴが表示される部分の高さをピクセル単位で指定します。
モニターを閉じる	モニター画面を閉じます。

ロック

メニューの[ロック]を選択すると以下の画面が表示されます。



[変更]メニューを選択するとパスワードの変更画面が表示されます。初期設定ではパスワードは空白になっています。



起動後パスワードを入力するとロック状態になり、再度入力するとロック解除状態になります。ロック状態では録音の停止と設定の変更が出来ません。

録音する

録音ボタンを押すと録音を開始します。録音ボタンがオレンジに変わったら録音が正常に行われています。
録音が始まらない場合はグレーのままです。
レベル調整は入力機器またはメニューの[オーディオ設定]から行います。
メイン画面上ではレベルの表示のみ行うことができます。



パスワードによるロック状態では録音停止は出来ません。

録音直後に生成されるデータは設定されたファイルの長さより短くなります。
一日の開始時刻が 04:59:50 でファイルの長さが一時間の場合、04:50:00 から録音開始すると
一番めのファイルが 04:50:00~04:59:50、二番めのファイルが 04:59:50~05:59:50
となります。

Shift キーを押しながら録音または停止ボタンを押すと全 ch 同時操作となります。

FileList 機能を使用している場合、手動で録音ファイル削除や補完などを行うとファイルリスト内容と整合性がなくなるので、その場合はファイルリストの更新を実行してください。

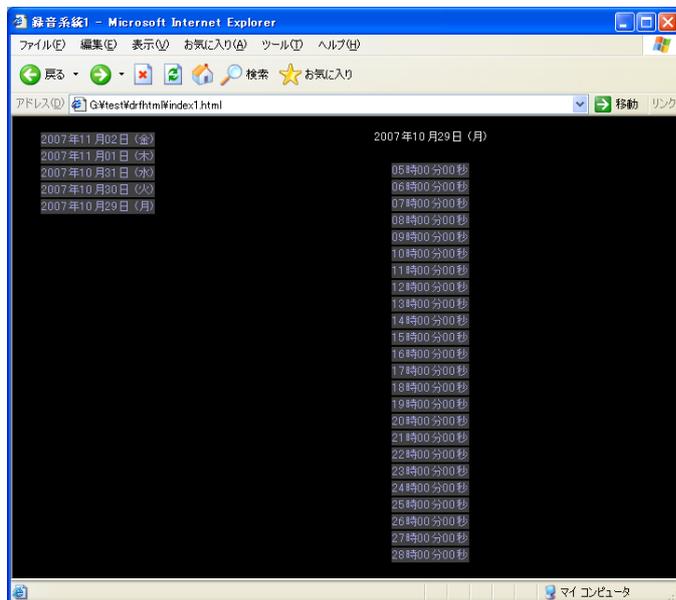
html出力

設定された html フォルダの中に index1.html、css1.txt をコピーしておきます。

ページタイトルなどはこの index1.html ファイルを編集して設定します。

複数システム録音の場合は index1.html を index2.html～index8.html と別名コピーして使用します。

色指定を変更する場合は css1.txt を編集します。これは index1.html～index8.html から参照されるので、系統ごとに別の色指定はできません。



時刻較正

設定されている較正分秒を過ぎている場合は時計を戻し、遅れている場合は進めます。

時計の長針が近いほうに移動すると考えてください。

録音ファイル切り替えタイミングが飛ばされないように余裕を持って較正を入れる必要があります。

また同じ時刻のファイル切り替えタイミングが複数回くるような状況も避けたほうがいいです。

毎正時にファイルを切り替える場合は 59 分ちょうどなどに較正が入るようにするのが理想です。

コマンドモード

外部制御ボックスに対して接点があったときに、1 バイトのシリアルデータを出力します。

AirRec 側では PC のシリアルポートに対して何らかのデータが来たときに較正します。

フォーマットは次の通りです。

38400bps,8bit,パリティなし,1 ストップビット

BCD シリアルモード

シリアルポートに直接時刻文字列を入力します。

BCD シリアルが入力されている場合は画面上に時刻が表示されます。実際に較正するのは設定された分秒の信号が来たタイミングだけです。

フォーマットは次の通りです。RS485→RS232 変換コネクタを用意します。

2400bps,8bit,パリティなし,1 ストップビット

全 18 バイト

	内容	ASCII	HEX
1	スタート	Null	02
2	10 年	0~9	30~39
3	1 年	0~9	30~39
4	10 月	0~9	30~39
5	1 月	0~9	30~39
6	10 日	0~9	30~39
7	1 日	0~9	30~39
8	曜日	0~6	30~36 (日曜から)
9	10 時	0~9	30~39
10	1 時	0~9	30~39
11	10 分	0~9	30~39
12	1 分	0~9	30~39
13	10 秒	0~9	30~39
14	1 秒	0~9	30~39
15	ストップ	Null	03
16	スタート	Null	02
17	ジャストタイム		E5
18	ストップ	Null	03

ファイルの補完

バックアップ録音がある場合は、そのデータから欠落した部分を補完することができます。

(例) 2015/01/01 12:45:00 に録音停止、2015/01/01 16:15:00 に録音開始
この場合は 2015/01/01 17:01:00 以降に補完作業が可能になります。

ファイル名は YYYYMMDDHHMMSS.mp3 になっています。
20150101120000.mp3 は他のファイルよりもサイズが小さくなっているはずで
このファイルと 20150101161500.mp3 を削除します。

バックアップ録音のほうから USB メモリ等で 20150101120000.mp3～20150101160000.mp3 の 5 ファイルを録音フォルダにコピーします。

ファイルリスト更新を実行します。

3. AirSrv サーバーソフトウェア

セットアップ

動作環境

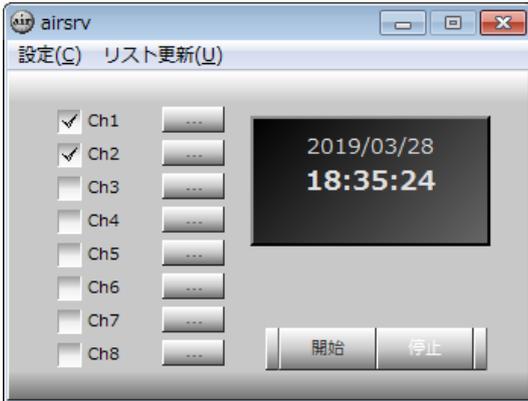
Windows7/8.1/10 で使用することをお勧めします。
接続される再生端末の数によって負荷が変わるのでシステム設計時にご相談ください。

	10 日	14 日	30 日	90 日	365 日
56kbps	7GB	9GB	19GB	55GB	230GB
96kbps	11GB	15GB	32GB	94GB	384GB
128kbps	14GB	19GB	42GB	125GB	505GB
160kbps	18GB	25GB	52GB	156GB	630GB
192kbps	21GB	30GB	63GB	187GB	760GB
256kbps	28GB	40GB	83GB	250GB	1TB
44.1kHz16bit Stereo	160GB	220GB	460GB	1.4TB	5.5TB
48kHz16bit Stereo	170GB	240GB	510GB	1.6TB	6.2TB

インストール

1. CD の内容を適当なフォルダにコピーします。
全てのファイルの属性から読取専用を解除します。
2. このアプリケーションはオーディオの取り扱いは行いません。
3. ライセンス管理は AirPlay に準じます。AirPlay を同じ PC にインストールしてください。
airsrv.exe がアプリケーション本体です。

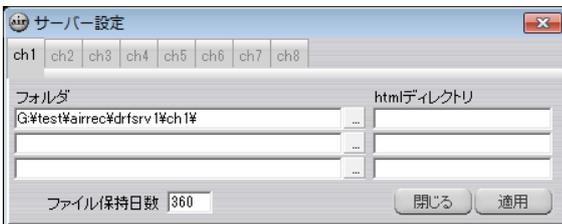
画面



[Ch1]	動作を有効にする系統を選択します。
(参照)	設定されているサーバーフォルダを表示します。
[開始]/[停止]	処理を開始します。 開始時には録音データやバックアップサーバーへの同期と html ページ作成などの一通りの処理を行います。

各種設定

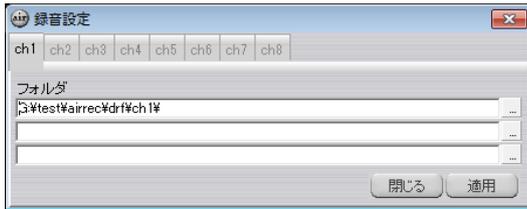
サーバー(正)



メニューの[設定]→[サーバー(正)]を選択するとサーバー設定画面が表示されます。
ここではローカル HDD 上のパスを指定します。この AirSrv が再生 PC に対して公開するサーバーフォルダとなります。

Ch	設定する録音系統を選択します。
フォルダ	取り込んだ録音データをおくフォルダを指定します。各系統最大 3 箇所設定できます。 各欄の右のボタンでフォルダ選択ダイアログが表示されます。 ディスク容量一杯まで録音する場合は同一ドライブは設定しないで下さい。
html ディレクトリ	それぞれのディレクトリを表す文字列です。Html ファイルの作成されるフォルダからの相対パスです。.././data1/ のような形式で入力します。 別途 http サーバーをセットアップする場合はその設定とあわせて下さい。
ファイル保持日数	録音ファイルの保存期間です。 この機能を利用しない場合は 0 を入力するか空白にしてください。 その場合は[詳細設定]の[ディスク容量チェック]を有効にしてください。

録音(正)、録音(副)、サーバー(副)



録音(正)には録音 PC が公開するフォルダを指定します。AirSrv はこのフォルダを監視し、新しく追加されたデータをサーバーフォルダにストリーミングコピーします。

録音(正)を参照できない場合は録音(副)を自動参照します。録音(正)が復旧した後に自動で録音(正)を参照するように戻ります。

AirSrv のバックアップ機がある場合はその公開フォルダを[サーバー(副)]で指定します。

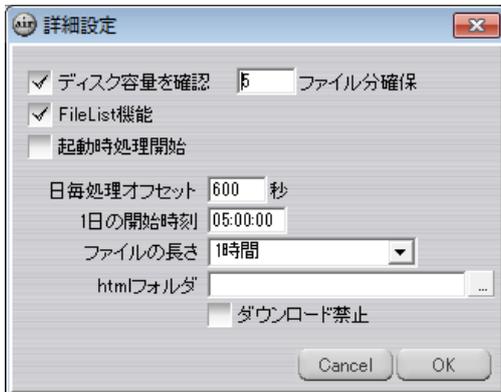
これは前日~14 日前のサーバーフォルダにファイル欠落がある場合にバックアップ側から補完する機能です。

AirSrv のバックアップ機がない場合は録音(副)と同じ内容を設定をします。

通常はバックアップ側と相互に補完する設定にします。

詳細設定

メニューの[詳細]を選択すると以下の画面が表示されます。



ディスク容量を確認	録音ディレクトリの容量を管理し古いファイルから削除します。これをオフにすると HDD がいっぱいになったときにエラーが発生しますが、外部からファイルを削除する場合や、ファイル数の上限が HDD 容量に対して余裕がある場合はオフにしてください。
(空き容量ファイル数)	常時何ファイル分の空き容量を確保するかを指定します。2 以上を入力してください。
FileList 機能	サーバーが保持している録音ファイル名をテキストに記録しクライアントの検索速度を速めます。
起動時に処理開始	アプリケーション起動時に、処理開始します。 スタートアップに AirSrv を入れておくと PC リセット時に処理開始できます。
日毎処理オフセット	一日一回処理するプロセスの作動時刻。1 日の開始時刻の指定秒後に実行します。 バックアップサーバーがある場合は各々ずらして設定すると負荷が分散されます。
1 日の開始時刻	050000 を指定すると 1 日は 5 時から 28:59:59 までとなります。録音 PC 側と合わせないと正しく動作しないことがあります。
ファイルの長さ	通常は 1 時間を選択します。録音 PC 側と合わせないと正しく動作しないことがあります。
html フォルダ	html ファイルを作成するフォルダです。録音ディレクトリを重複させないで下さい。 ここに添付の index1.html、index2.html などをコピーしておきます。
ダウンロード禁止	生成される html ページにて右クリックを無効にします。

4. AirPlay 再生ソフトウェア

セットアップ

動作環境

Windows7/8.1/10 で使用できます。

インストール

1. 標準オーディオデバイスが動作する環境である必要があります。
2. AutoCD 機能を使用する場合は Bravo を接続する PC にセットアップが必要です。
別項参照
3. CD 内容を適当なフォルダにコピーします。
全てのファイルの属性から読取専用を解除します。
4. (ソフトウェアプロテクト版)
keyXX.exe を実行して解除できます。UAC が有効な場合は右クリックして「管理者として実行」を選択します。
keyXX.exe はライセンス毎に発行されるものです。第三者に利用されないよう注意してください。
5. airplay.exe がアプリケーション本体です。初回は管理者として実行してください。
サーバーに時刻を合わせる機能を使用する場合は、毎回管理者として起動する必要があります。

Bravoのセットアップ

概要

Bravo を接続する PC に以下の 3 つをインストールする必要があります。

- Bravo プリンタのドライバ
- CD パブリッシャーの制御アプリケーション PTBurn
- ラベルテンプレート作成ソフトウェア ShureThig
- カートリッジクリーニングなどを行う PTPublisher

プリンタのドライバは標準的なデバイスドライバのインストール手順で行うことができます。

PTBurn は複数のバージョンがあります。

ShureThig は PTBurn のバージョンに対応したものをインストールする必要があります。

ShureThig と PTBurn はインストーラー形式で配布され、インストール時には設定項目などはありません。

PTBurn はサービスとして起動する常駐アプリケーションです。

操作やプリンタ状態表示については AirPlay の[プリンタ]画面からのみ行うことができます。

AirPlay アプリケーションのフォルダに[start.bat]というバッチファイルがある場合は AirPlay 起動時にこれを実行するようになっています。この内容は net start ptburnservice となっており、これによってサービス開始できるようにします。

その他

Bravo Pro/ Bravo ProXi の場合、初めて使用する場合や、インク交換をした後などにはプリントヘッドの調整(アラインメント)を促されることがあります。(printer needs to be aligned 等のメッセージ)

AirPlay の[プリンタ]画面から調整の実行を問い合わせるメッセージが表示されます。

この調整はコントロールパネルの[ハードウェアとサウンド]→[デバイスとプリンター]→から該当プリンタを右クリックし、[プリンターのプロパティ]→[詳細設定]タブ →[標準の設定]→[Cartridge Alignment]からも実行することが出来ます。

Bravo4100 シリーズではアラインメントは不要です。



インク濃さ変更

この調整はコントロールパネルのプリンタのプロパティ→[詳細設定]→[標準設定]から[Ink Saturation]を変更します。この画面ではその他にも設定変更をする項目がありますが、初期値で問題ないです。



Bravo Pro/ Bravo ProXi の場合はカートリッジのクリーニングもこの画面から行います。

Bravo4100 シリーズの場合は、PTPublisher を起動し、メニューの[ツール]→[プリンタプロパティ]からカートリッジのクリーニングを行います。

Bravo のアームが上下を繰り返して止まらない状態から脱出する方法

・ドライブのトレイが開いて、ディスクが無いのに拾おうとしている場合

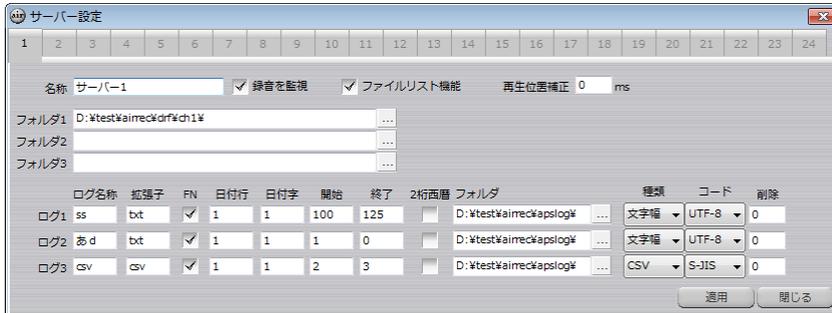
→カバーを開いて適当なディスクをトレイに入れ、プリンタ左ボタンを押す →中央の排出口からディスクを出して復帰します。

挙動がおかしいときは、PC とプリンタの両方の電源を落として、再起動してください。

設定

設定の多くはアプリケーション再起動後に変更が反映されます。

サーバー設定



メニューの[設定]→[サーバー設定]で設定画面を表示させます。

各欄の値を変更したら[適用]を押します。画面は閉じないので一通り設定がすんだら[閉じる]を押します。

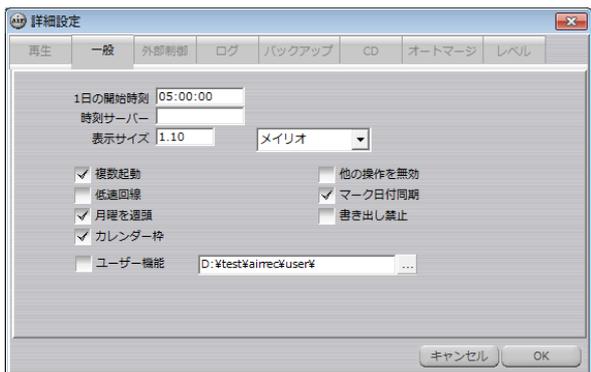
(接続サーバー)	設定する録音系統(サーバー)を選択します。最大 16 箇所サーバーに接続できます。
サーバー名称	接続サーバー名の呼称を入力します。空白だと認識されません。(例)PGM、エア、ネット等 バックアップメディアからも再生したい場合は名称を「メディア」などとして接続サーバーの一つとして登録します。
録音を監視	20～70 分毎にサーバーを監視し、更新されていないときは警告を発します。
ファイルリスト機能	サーバー側に作成されるファイル一覧テキストを参照することで検索動作を速めます。 ファイルリストが作成されない、アーカイブ用 HDDなどを参照する場合はオフにします。
再生位置補正	再生中に表示される時刻が音声より進んでいるまたは遅れている場合の補正です。
フォルダ	各サーバーにつき最大 3 つの音声フォルダを指定できます。サーバー側とフォルダの序列を合わせる必要があります。各欄右のボタンでフォルダ選択ダイアログが表示されます。
(ログデータ形式設定)	APS の送出ログなどのテキスト内容の形式です。参照しない場合は設定の必要はありません。 各サーバーに最大 3 種の形式を設定できます。CSV 形式にも対応しています。
名称	ログの呼称です。(例)ローカルの CM ログ、ネットの番組ログ
拡張子	ファイルの拡張子など、判別のための固有の文字列を入力します。 カンマで区切って 2 種類まで指定できます。
FN	ファイルの日付をファイル名から判定するかどうかです。 オフにすると [日付行] [日付字] の設定が必要です。 オンの場合は [日付字] にファイル名の何文字目から日付が開始されるかを入力します。
日付行、日付字	ファイル中の何行目の何文字目から日付が記入されているかを指定します。
開始/終了	毎行の何文字目から開始時刻、終了時刻が記入されているか指定します。全ての行に含まれている必要はありません。該当する位置に時刻と思われない文字が記入されている行は参照されません。
2 桁西暦	参照する日付の年が 2 桁表記であるときはチェックします。
フォルダ	そのタイプのテキストファイルがあるフォルダを指定します。右のボタンでフォルダ選択ダイアログが表示されます。
種類	文字数 [時刻] に指定された文字数から時刻が記述されている場合 文字幅 [時刻] に指定された文字バイト数から時刻が記述されている場合 CSV コンマ区切りテキスト [時刻] に指定された項目列に時刻 CSQV コンマ区切り引用符(“) TSV タブ区切りテキスト
コード	テキストの文字コードを指定できます。S-JIS か UTF-8 から選択します。
削除	指定日数を過ぎた古いログを削除します。ログのあるフォルダが書き込み可能である必要があります。

詳細設定

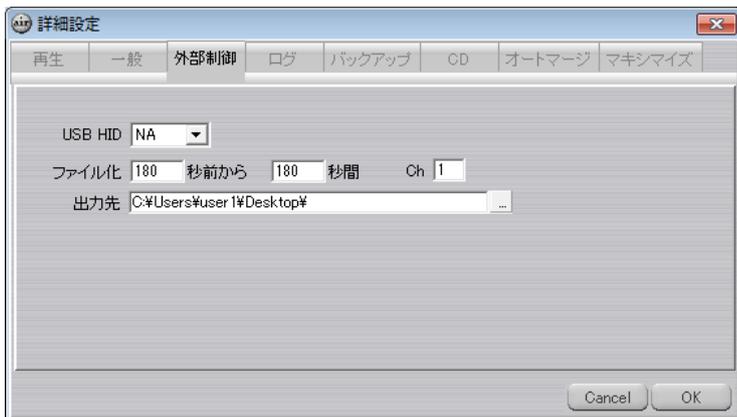
メニューの[設定]→[詳細]を選択すると以下の画面が表示されます。



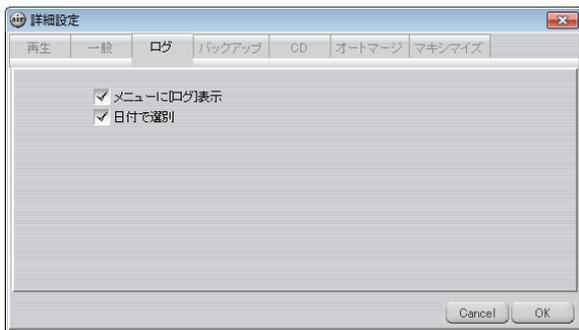
再生デバイス	オーディオデバイスを選択します。
倍速	範囲内再生の倍速値です。
再生レスポンス	細かく再生を繰り返したときの反応速度です。値を小さくしすぎると負荷が大きくなって不具合を起こすことがあります。
再生バッファ数	2以上の値を指定してください。大きくすると再生が安定しますがレスポンスが遅くなります。
メーターレベル	メーターの赤くなる位置をdbfsRMSで指定します。
0.1秒単位	再生や範囲指定を0.1秒単位にします。
デバイス選択表示	メイン画面に再生デバイスの選択ボックスが表示されます。



一日の開始時刻	スケールやスライダーの最小値です。
時刻サーバー	時計を同期する際参照するコンピュータ名です。¥¥は必要ありません。時刻補正が必要ない場合は空白にしてください。一時間に一度同期します。再生中は同期されません。またメイン画面の時計をダブルクリックすると較正されます。管理者として実行する必要があります。
表示サイズ/(フォント)	メイン画面の部品の大きさを比率で指定します。表示に使用するフォントを選択します。
複数起動	AirPlayは別々の設定で、最大4つまでの同時起動が可能です。起動した順番でウィンドウのタイトルがAirPlay、AirPlayB...となります。ショートカットのプロパティでリンク先をC:\music\obo\airplay.exe Bとすると2番目のAirPlayを直接起動することが出来ます。
他の操作を無効	オンにするとアプリケーション起動中は背景が黒くなり、他の画面やデスクトップの操作ができません。またアプリケーション終了時にPCの電源がオフになります。
低速回線	サーバーの動作が遅い場合や、ネットワーク速度が遅い場合にオンにします。処理進度の表示などが細かくなります。
マーク日付同期	カレンダー上で別の日付に移動したときに、選択範囲の日付も移動します。
月曜を週頭	カレンダーやオートマージ画面で週の先頭を月曜にします。オフにすると日曜が先頭になります。
書き出し禁止	ファイル化やCD作成ボタンを非表示にします。
カレンダー枠	カレンダー上で録音データのある日付には白枠を表示します。オフにすると日付の移動が高速になります。
ユーザー機能	ユーザーリストを保存するフォルダを指定します。通常はサーバー上にフォルダを作成してください。サーバーにアクセスできない場合はローカルに自動保存されるリストを読み込みます。



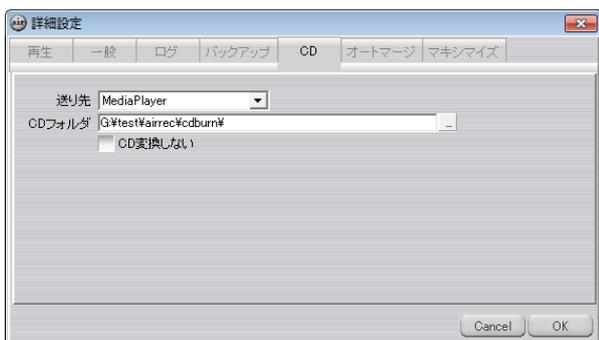
USB HID	接点出力を利用する場合に機器 ID を指定します。 監視機能で警報が出力されるのは出力ピン 1
ファイル化	接点入力があったときに指定範囲/指定 ch をファイル化します。 入力ピンの 2 とコモンがショートされたときに動作します。
出力先	ファイル化の出力先フォルダを指定します。



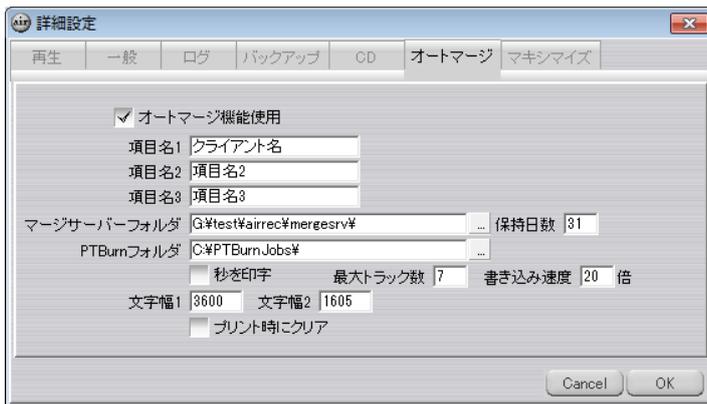
メニューにログ表示	[ログ参照]メニューを表示させます。
日付で選別	ログ参照の際に該当する日付のデータを自動で選択します。 バックアップにログを添付する場合にも反映されます。



メニューにバックアップ表示	[バックアップ]メニューを表示させます。
前後 1 ファイルを追加	選択された日付の前後 1 ファイルに該当するサウンドデータを追加します。
詳細なファイル照合	バックアップ処理でサウンドデータに対してバイナリ比較を行います。これをオフにするとファイルサイズのみ の比較を行います。
ログをコピーする	送出ログなどの参照テキストデータもバックアップメディアに書き込みます。 これがオンの場合は自動バックアップの際にもログが添付されます。 転送先以下に log フォルダを作成し、そこにログデータをコピーします。
テキストインデックス	書き込まれるファイル一覧をテキスト形式で添付します。
メディア	バックアップメディアの読み込み書き込みドライブ
自動バックアップ	チェックした接続サーバーのデータを PTBurn 機能を利用して DVD にバックアップします。 処理は一日の開始時刻を過ぎたときに開始されます。 2 日毎と設定すると 2 日分を 1 枚のメディアに書き込みます。



送り先	使用しない	[CD]メニューと[CD]ボタンは表示されません。
	Windows CD 書き込み	C:\Documents and Settings\ユーザー\Local Settings\Application Data\Microsoft\CD Burning に送られます。
	Media Player	Windows Media Player を利用してオーディオ CD 作成を行います。メニューの[CD]を選択すると wmp にリストが送られます。
	BurnIt	BurnIt を利用してオーディオ CD 作成を行います。64bit 版 Windows では動作しないことがあります。メニューの[CD]を選択すると BurnIt が起動します。
CD フォルダ	CD に書き込む wav ファイルを一時保存するフォルダ。	
CD 変換しない	wav/mp3 録音の形式が 44100Hz16bit で無い場合には CD に焼く場合に形式変換が必要ですが、AirPlay ではなく焼きこみソフト側の変換機能を使用したい場合にオンにします。 オフの場合は 44100Hz16bitStereo に変換します。	



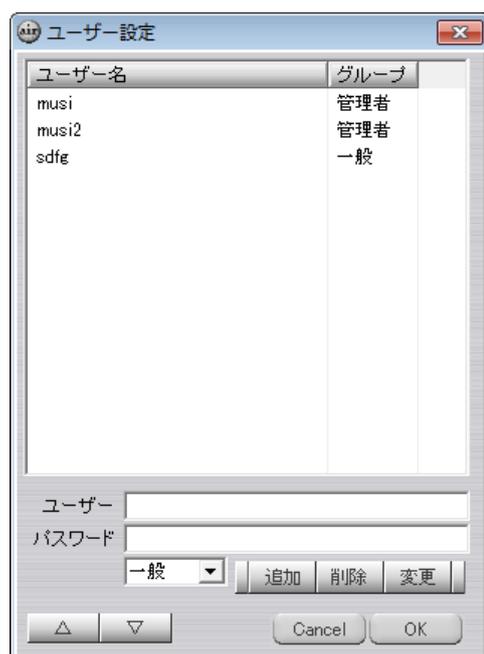
オートマージ機能使用	これをオンにするとメイン画面に[AUTO]のインジケータが表示されて機能が有効になります。
項目名	項目の呼称を指定します。 マージサーバー機能を使用する場合は項目 1 がフォルダ名として使用されます。
マージサーバーフォルダ	マージデータを保存するフォルダを指定します。 空白の場合はマージサーバー機能がオフになります。 [保持日数]にはデータを保存したい期間を指定します。HDD 容量の確認は行わないので余裕を持った設定にしてください。 保持日数をゼロにすると古いデータの削除を行いません。
PTBurn フォルダ	PTBurn を使用した自動 CD 作成に使用するフォルダを指定します。 空白の場合は PTCBurn 機能がオフになります。
秒を印字	オフにすると PTCBurn でディスク印字する際に、時刻を HH:MM の形式にします。
最大トラック数	PTBurn のディスク作成最大トラック数を指定します。印字テンプレート(default.std)のレイアウトにあわせる必要があります。
文字幅	印字するタイトルとトラックの文字幅を設定します。 CD テンプレートによって値を調整してください。
プリント時にクリア	AutoCD 画面で、CD 作成したときに自動でリストをクリアします。



選択範囲をファイル化する際に音量操作が可能です。
 音量変更は単純に音量を増幅もしくは減衰します。
 マキシマイズは音量を圧 db ぶん増幅し、クリップするようであればその部分だけを自動的に下げる機能です。
 歪ませずに聴感上の音量を上げることが出来ます。

音量変更 : レベル	音量を変更します。適用しない場合は 0 にします。
マキシマイズ : 圧	音量をどのくらい上げるかの最大増幅率を db 単位で指定します。 適用しない場合は 0 にします。
マキシマイズ : アタック	増幅率が下がるまでにかかる時間をミリ秒単位で指定します。
マキシマイズ : リリース	増幅率が戻るまでにかかる時間をミリ秒単位で指定します
wav/CD/AutoCD/オートマージ	各機能に対して音量操作をする/しない/確認するを選択します。

ユーザー設定



AirPlay の使用者を設定し、パスワード管理をします。
操作ログにユーザー名を残すことができます。
[ユーザー][パスワード]を入力して[追加]を押すとユーザー追加できます。
ユーザー種別として[一般][管理者]から選択できます。
△▽ボタンでユーザー表示順を変更できます。

再生する



通常再生

- 画面左のドロップダウンリストで接続したいサーバーを選択します。
その下のカレンダーにはそのサーバーで録音されている日付がハイライトされているはずですが。
- カレンダーで再生させたい日付をクリックします。または日付をクリックするとキーボード入力が可能です。日付の両脇の矢印で月を移動します。横に長い録音データスケールに録音済み範囲が青く表示されます。終日録音されている場合はバー全てが青になります。
- 再生時刻スライダーをドラッグして時刻を指定します。このスライダーは全体で24時間を示しています。スライダーの両端の両矢印  は微調整です。この矢印をクリックしたときの移動量は、その下の[10秒]または[30秒]または[60秒]と表示されているワク  をクリックすることで順次切り替わります。
- 右向きの矢印の再生ボタンを押します。
- または画面中央の再生時刻表示をクリックして時刻を120000のように入力してEnterを押すとその時刻から再生します。ここにカーソルがある場合は以下のショートカットキーが利用できます。
Esc...再生停止、文字消去
Enter...再生開始
F1...「IN」ボタン
F2...「OUT」ボタン
F3...「範囲内再生」ボタン
F4...「倍速再生」ボタン
F5...「mpeg」ボタン
F6...「wav」ボタン
F7...「CD」ボタン
F8...「AutoCD」ボタン
F9...「IN」ボタン右クリックの[IN位置に移動]
F10...「IN」ボタン右クリックの[IN位置から再生]
F11...「OUT」ボタン右クリックの[OUT位置に移動]
F12...「OUT」ボタン右クリックの[OUT前から再生]

範囲内操作

範囲の指定にはいくつかの方法があります。

IN ボタンの右の開始時刻欄に時刻を 123000 のような形式でキー入力します。
同様に終了時刻を入力します。

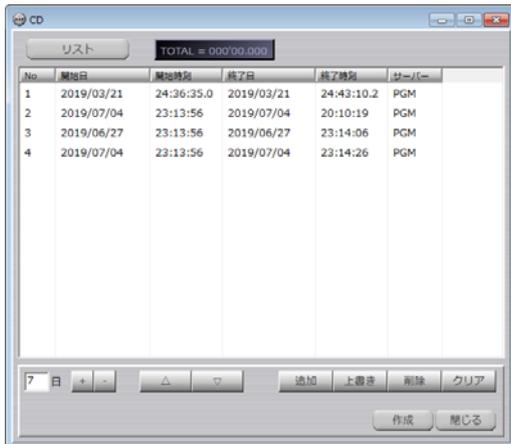
または
再生時刻スライダーで開始位置を指定し「IN」ボタンを押す。
再生時刻スライダーで終了位置を指定し「OUT」ボタンを押す。

または
再生時刻表示をクリックして開始時刻を 120000 のように入力して F1 キー
終了時刻を 120500 のように入力して F2 キー

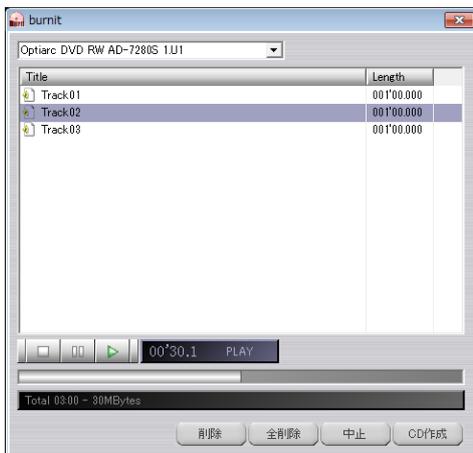
選択した範囲に対して以下の操作が可能です。

範囲内再生	指定された範囲を再生します。
倍速再生	指定された範囲を指定速度倍速再生します。速度は詳細設定で指定された値です。再生データが複数ファイルにまたがる場合はファイルを再生成するので時間がかかります。
mp3	指定された範囲をファイル化します。 圧縮録音の場合は 12 時間が上限となります。
WAV	指定された範囲をファイル化 & デコードし、wav ファイルとして出力します。 指定できる範囲の長さは最大 180 分になります。
CD	指定された範囲を PC 内蔵の CD ドライブでオーディオ CD 作成する機能です。
AutoCD	Primera 社 CD パブリッシャ Bravo を使用して、オーディオ CD またはデータ CD 作成+ラベル印字を行う機能です。 PTBurn 機能を使用する場合のみ表示されます。

オーディオ CD作成



リスト	このリストに名前をつけて保存/読み出しをすることが出来ます。
日 +/-	選択されたアイテムの日付を加減します。
△▽	リストで選択されてアイテムの上下を入れ替えます。
追加	メイン画面上の選択範囲をリストにアイテムとして追加します。
上書き	メイン画面上の選択範囲をリスト上の選択アイテムに上書きします。
削除	選択アイテムをリストから削除します。
クリア	全てのアイテムを削除します。
作成	一欄を wav ファイルに抜き出して BurnIt もしくは Windows Media Player に送ります。

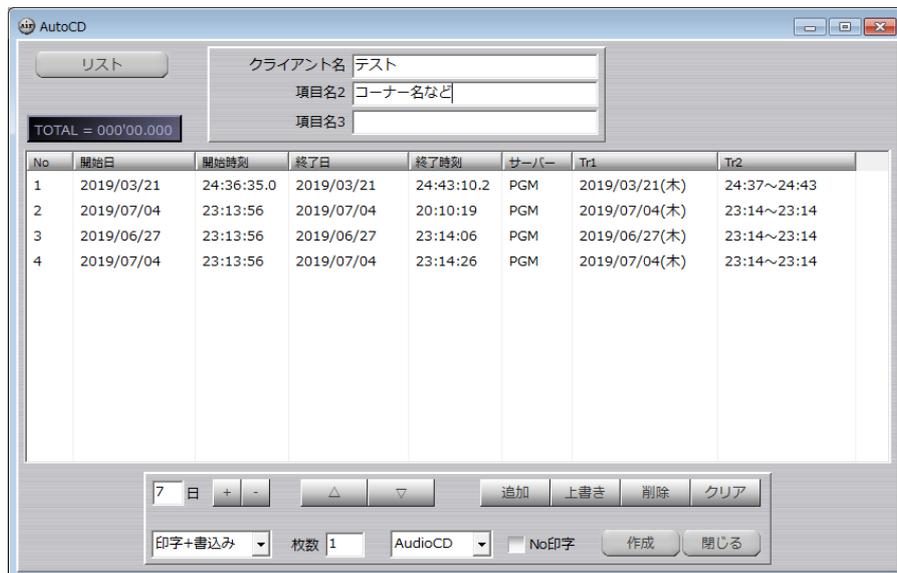


BurnIt は選択したドライブでオーディオ CD を作成するアプリケーションです。(64bit 版 Windows 上では動作しないことがあります)
 リストに wav ファイルをドラッグ & ドロップして追加/順番入れ替えをすることもできます。
 リストの項目を選択して三角の再生ボタンを押すと試聴することができます。

削除	選択されたファイルを削除します。
全削除	すべてのファイルを削除します。
中止	CD 作成処理を中断します。
CD 作成	CD 作成処理を開始します。

アプリケーションフォルダに burnit_first.wav、burnit_last.wav というファイルを作成しておく、固定的に最初と最後のトラックに収録されます。ファイルは 44100Hz/16bit ステレオ形式限定です。

AutoCD



印刷テンプレートはアプリケーションフォルダにある default.std を使用します。

メーカー添付のソフトウェア SureThing で自由に編集してかまいませんが既定のフィールドを変更すると正しく印刷されなくなるので注意してください。

(例)ロゴを変更する操作

C:\musicobo\default.std をダブルクリックします。

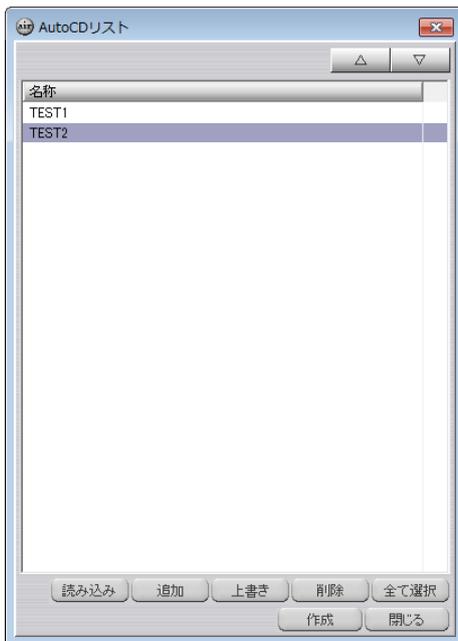
データベースが開けませんというメッセージはキャンセルを選択します。

旧ロゴを右クリックし、[オブジェクトをカット]を選択します。

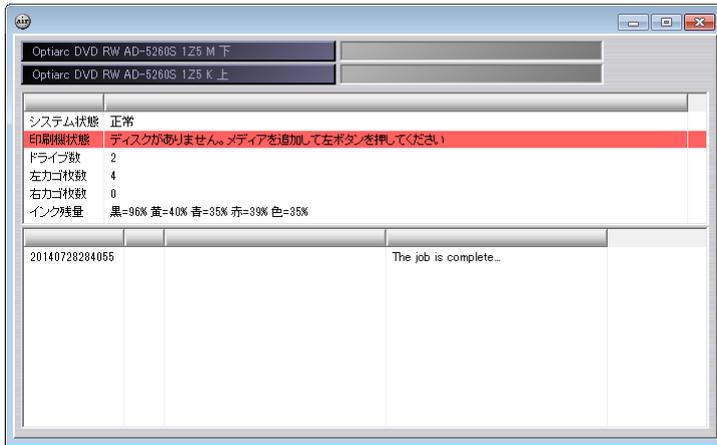
[ピクチャ/クリップアートの参照]から新しい画像ファイルを選択します。

[ファイル]メニューから保存を選択します。

リスト	このリストに名前をつけて保存することが出来ます。
(項目名)	盤面に印字されるタイトルを入力します。
Tr1/Tr2	盤面に印字される各トラックの名前。
△▽	リストで選択されてアイテムの上下を入れ替えます。
日 +/-	選択されたアイテムの日付を加減します。
△▽	リストで選択されてアイテムの上下を入れ替えます。
追加	メイン画面上の選択範囲をリストにアイテムとして追加します。
上書き	メイン画面上の選択範囲をリスト上の選択アイテムに上書きします。
削除	選択アイテムをリストから削除します。
クリア	全てのアイテムを削除します。
印字のみ	印字のみ、書き込みのみ、両方のうちから選択できます。
枚数	作成枚数
AudioCD	作成する CD の形式を[AudioCD][DataCD]から選択します。
No 印字	オンにするとトラック番号を印字します。
作成	CD を作成します。



読み込み	選択されたリストを AutoCD/CD 画面のリストに読み込みます。
追加	AutoCD/CD 画面のリストに名前をつけて保存します。
上書き	選択されたリストを AutoCD/CD 画面のリストで上書きします。
削除	選択されたリストを削除します。
全て選択	リストの全てを選択します。
作成	選択されたリストを AutoCD/CD 出力します。



Bravo を接続する PC の AirPlay ではメイン画面メニューに[プリンタ]が表示されます。

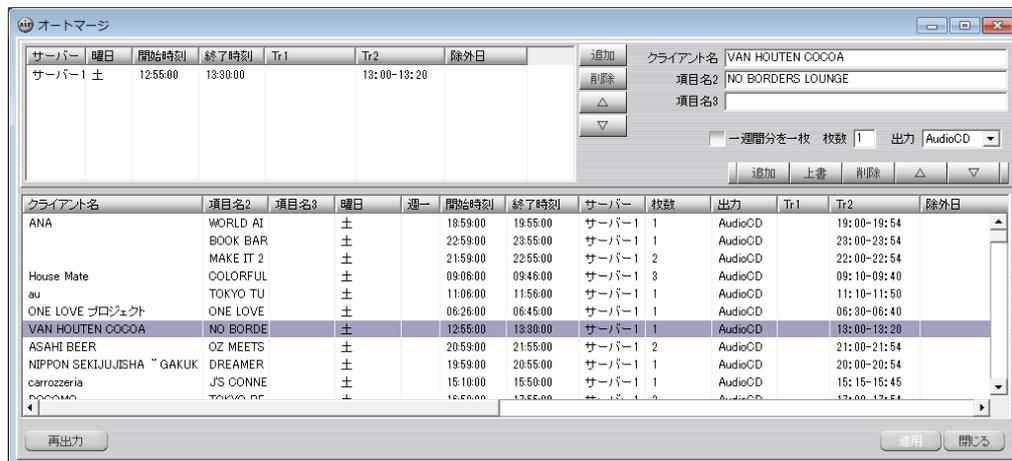
これを選択すると Bravo の状態が表示される画面が表示されます。

下段リストは CD 作成プロセスの状態、右クリックでプロセス中止が可能です。

Bravo の状態が中途半端なまま停止してしまうこともありますので、緊急の停止以外はこの操作を行わないことをお勧めします。

アプリケーションフォルダに ptburn_first.wav、ptburn_last.wav というファイルを作成しておく、定期的に最初と最後のトラックに収録されます。ファイルは 44100Hz/16bit ステレオ形式限定です。データ CD 作成の場合はこの機能はスキップされます。

オートマージ



オートマージはあらかじめ入力したスケジュールに従って指定範囲のファイル化や CD 化を行う機能です。オートマージには 2 つの機能があります。

マージサーバー機能は指定のフォルダに抜き出した音声ファイルを保存してゆく機能です。これは圧縮録音の場合は圧縮状態のまま保存されます。古くなったファイルを自動で削除することもできます。

PTBurn 機能は BravoPro 等の Primera 社 CD パブリッシャーでオーディオ/データ CD の自動印刷 & データ作成を行う機能です。

どちらの機能も共通のスケジュールを参照しますが、出力がオーディオ CD の場合は最大 80 分、マージサーバー機能やデータ CD 作成のように圧縮データの場合は 12 時間が上限となります。

メイン画面のメニューから[オートマージ]を選択すると上の画面が表示されます。上側のサブリストは各スケジュールの構成内容になります。追加/削除でリストの編集をします。

サーバー	対象となる録音システムを選択します。
(日～土)	出力する対象曜日を選択します。
開始/終了時刻	123000 の形式でキー入力すると 12:30:00 と変換されます。 開始を 28:50:00、終了を 05:10:00 と日付をまたぐことも可能です。
Tr1/Tr2	PTBurn 機能が有効な場合のみ表示されます。 CD 盤面の各トラックのタイトルに印字される文字を指定できます。 空白にしておく、Tr1 の欄は日付、Tr2 は時刻が印字されます。
除外日	特番などで、出力する必要のない日を指定することができます。 リスト上でダブルクリックすると日付選択画面が表示されます。

(項目名)	設定された文字情報を入力します。 一番目の項目は必ず入力してください。 一番目の項目はマージサーバー機能ではサブフォルダ名として使用されます。
一週間分を一枚	PTBurn 機能が有効な場合のみ表示されます。 これがオンの場合はサブリスト内の項目の全てをまとめて一枚の CD に出力します。 オフの場合はサブリスト内の各項目ごとに逐次 CD が作成されます。
枚数	PTBurn 機能が有効な場合のみ表示されます。 同一の CD を何枚作成するかを指定します。
出力	オーディオ CD、mp3 等の録音データを記録した CD、マージサーバーフォルダに出力から選択できます。

[追加]を押すと入力された内容で下側スケジュールリストに新規に行が追加されます。またリストの一行を選択して、内容を変更してから[上書]を押すと上書き修正されます。リストの一行を選択して[↑][↓]ボタンを押すとその行のリスト中での位置が変わります。リスト中での順番はスケジュール動作には関係ありません。リストの一行を選択して[削除]を押すと該当する行が削除されます。この場合のみ Shift や Ctrl を使用した複数行選択が可能です。

以上の変更は[適用]ボタンを押したときに反映されます。[閉じる]ボタンを押すと保存せずに画面が閉じます。

メイン画面上の[AUTO]がクリックされて有効な場合のみスケジュールが実行されます。
各スケジュールが実行されるタイミングは該当の曜日/時刻を数分過ぎたときです。
[一週間分を一枚]の場合はサブリスト中で最も遅い日時の項目の終了時刻を過ぎた後です。
また手動再生などの操作がされている間はスケジュールは実行されません。操作が完了して放置されていると実行されます。

スケジュールは追加/変更時から過去にさかのぼって自動実行されることはありません。
ただし[一週間分を一枚]がオンの場合はサブリスト中の最終曜日/時刻を過ぎていなければCD作成時にその週の指定分はさかのぼって作成されます。

過去の分を出力したい場合は[再出力]ボタンを押します。出力する週または曜日をリスト上で選択して出力します。

ログ参照機能

開始	終了											
09:55:50	09:56:10	095560	095610	表			00956T	後CM		0501859	東信協	MA-05-2 フリコサキ2
09:56:10	09:56:31	095610	095731	表			00957S	P.T		0809382	毎日新聞社	O8A1 ほめ言葉 改訂 途中音なし・ロゴ
09:56:10										0801458	沖縄観光コンベン	CV2 三味線おじい・美人
09:56:45	09:59:57	095945	095957	表	T	時報	00959X	10時のTSP		0800549	永谷園	D 住進町キャンペーン・主婦篇
10:00:00		100000						10時の時報		0801277	IYグループ	時報 7051Y-D10 プレミアム/ごま
10:06:32	10:07:12	100632	100712	表			01005T	CM		0805494	NTTドコモ	H19 1モード災害用伝言板・みんなで試そ
10:06:32										0808992	NTTドコモ	Y6 スタイルシリーズ・アパレルショップ
10:07:21	10:08:21	100721	100821	表			01007S	P.T		0802097	あんしん財団	L 暑に闘い送・災害防止
10:07:21										0801723	東芝	QE1 クワイエ、いろいろな音
10:08:48	10:09:08	100848	100908	表			01009T	前CM		0808532	光雪堂	C 企業イメージ Cタイプ
10:17:28	10:18:25	101726	101825	表			01015T	後CM		0807910	聴線の空襲	H6 ハガタ
10:17:28										0707295	再春館	4Q 偏食漏れの声/おじいちゃん聴話
10:19:15	10:19:35	101915	101935	表			01020T	後CM		0801625	日産化学工業	R1 ラウンドアップ MX「突然の雨」
10:22:43	10:23:03	102243	102303	表			01024T	後CM		0800437	東京トラック協会	22 09事故半減アピール編 2
10:23:03	10:24:03	102303	102403	表			01024S	P.T		0801413	オリエンタルラン	D モンス・サイズ/ライド&ゴシック有・前
10:23:03										0801573	全農協(JA連合)	JA1140 国産・消費/声援40*
10:42:11	10:43:11	104211	104311	表			01031T	前CM		0808283	エーザイ	NB29 肩こり お疲れ様
10:42:11										0703115	マルエン	11 セル告知<の市>・Sロゴ付
10:46:45	10:47:25	104645	104725	表			01040T	中CM		0808515	エーザイ	S3 セルベール 胃はどうして溜けなしの?
10:48:24	10:48:24	104824	104824	表			01048T	後CM		0703117	マルエン	13 フーデックス、ホームックス
10:48:24										0703115	マルエン	11 セル告知<の市>・Sロゴ付
10:48:24										0808259	エーザイ	NB25 肩こり パソコン
10:51:24	10:51:43	105124	105143	表			01051S	P.T		0801626	板理	P 板理の903

ログを参照して再生

1. メニューの[ログ参照]をクリックして上の画面を表示させます。
2. 画面右のドロップダウンリストからテキストデータの種類を選択します。ここではメイン画面で接続しているサーバーに設定されたテキストデータの種類が選択できます。
メイン画面で別のサーバーに接続するとこの画面でも選択できるテキストデータの種類が更新されます。
3. 詳細設定で[日付で選別]がオンになっている場合はメイン画面のカレンダー日付に該当するファイルのみ一覧に表示されます。メイン画面のカレンダーの日付を移動するとこの画面の日付も移動して一覧を再表示します。
オフになっている場合はパスと拡張子のみ参照し、該当する全てのファイルを一覧に表示します。
一覧に複数のファイルがある場合はファイルをダブルクリックして表示させたいテキストデータを選択します。
4. 表示されるリストから再生させたい項目をダブルクリックします。
[日付で選別]がオフになっている場合は手でテキストデータの日付にメイン画面の日付を合わせてください。
リスト上で右クリックすると再生停止、さらに右クリックすると[範囲設定]のメニューが表示されます。
範囲設定はその行の開始/終了時刻をメイン画面範囲選択のIN/OUTにセットします。開始/終了のどちらかだけを設定も出来ます。[文字列コピー]は選択された欄の文字列をクリップボードにコピーします。

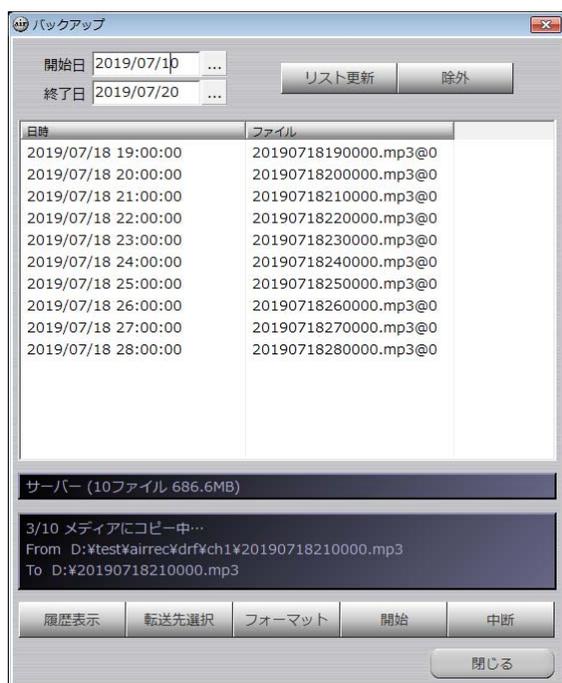
バックアップ機能

バックアップについて

指定範囲の日付に該当する録音データやテキストデータをそのまま外部メディアなどにコピーする機能です。バックアップに対応するメディアはパケットライト可能なものです。それ以外のドライブを利用したい場合は手動で行ってください。テキストデータはメディアの log フォルダにコピーされます。バックアップされたデータを再生するにはメディアを挿入して、サーバー選択のドロップダウンリストで「メディア」等を選択します。テキストデータも参照できます。

メディアにバックアップする

メニューの[バックアップ]を選択して以下の画面を表示させます。



開始日/終了日	日付欄の右のボタンで日付選択カレンダーが表示されます。 開始日を 5/25、終了日を 5/27 と選択し[リスト更新]を押すと 3 日分のデータをバックアップ対象とすることになります。 リストに表示されるファイルはメイン画面で選択しているサーバーのもので。
リスト更新	開始日から終了日以内に該当するファイルをリストアップします。
除外	リストに表示されている項目からバックアップしたくないものを除外します。選択されている項目が除外されますが選択には Ctrl、Shift を利用した複数選択も利用できます。
履歴表示	バックアップの履歴を記録したテキストファイルを表示します。 バックアップが正常に終了した場合のみ記録されます。
転送先選択	設定とは別の場所にバックアップする場合に、転送先フォルダを指定します。 初期値では[詳細]設定の[バックアップ][メディア]で設定されているフォルダになっています。
フォーマット	メディアをフォーマットします。エクスプローラーなどからフォーマットできる形式のメディアに限ります。
開始	バックアップを開始します。
中断	バックアップを中断します。
閉じる	この画面を閉じます。

ロック機能



メニューの[ロック]を選択するとこの画面が表示されます。

パスワードを入力して OK を押すとロックされます。

[操作をロック]がチェックされている場合は AirPlay の操作全てが使用できなくなります。ただしオートマージ機能は動作を続けます。

[操作をロック]が無効な場合は[設定]メニューのみがロックされます。

ロックを解除する場合は再度パスワードを入力し、OK を押します。

パスワードを変更する場合は[変更]メニューから行います。

パスワードはユーザー設定機能で設定したパスワードを使用することも出来ます。

監視機能

サーバーの監視が有効になっている場合は、録音データが追加されているかどうかと、エラーログが出力されていないかどうかを監視します。

20～70 分ごとにサーバーのチェックを行います。

エラーログの監視にはサーバー側で log フォルダが共有されている必要があります。

(例) サーバーフォルダが¥¥AIRREC1¥dr¥ch1¥の場合 → ¥¥AIRREC1¥log¥となるように公開

警報時にアラーム音も出力されますので、CD などに録音を行うクライアントでは監視機能はオフにしてください。

USB HID が設定されている場合はここで接点出力もされます。ピン 14 と 25(または 13)がショートされます。

警報画面の OK を押すと画面は閉じます。



5. apax ブラウザ版AirPlay

セットアップ

動作環境

- WindowsXP/Vista/7/8 上で動作する Internet Explorer で使用できます。
- 音声データのやり取りには Windows ネットワークを使用するので、サーバークライアント間で Windows ローカルネットワーク接続されている必要があります。http ポートのための接続では動作しません。
- サーバー側でファイルリスト機能が有効になっている必要があります。
- サーバー側は IIS などの http サーバーを動作させて、web サーバーとして動作させる必要があります。

インストール

サーバー側に必要なファイルを置きます。

apax.ocx	再生用 ActiveX モジュール
ap.html	トップページ。必要に応じて index.html などに名称変更して構いません。
aphowto.html	設定の説明ページ
unreg.bat	アンインストール用バッチファイル。バージョンアップなどが出来ないときにクライアント側で実行します。

クライアント側セットアップ

サーバーにブラウザからアクセスするだけで動作します。

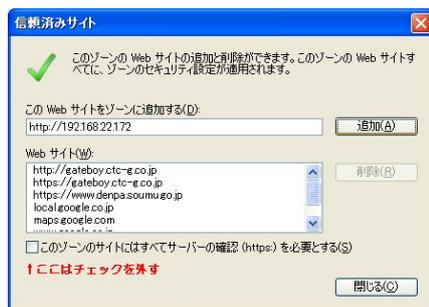
ただし再生モジュールを動作させるにはブラウザからの警告が毎回表示されるので、これを回避するためには以下のようにブラウザの設定変更をします。

Internet Explorer のメニューから

[ツール]→[インターネットオプション]→[セキュリティ]→[信頼済みサイト]を選択

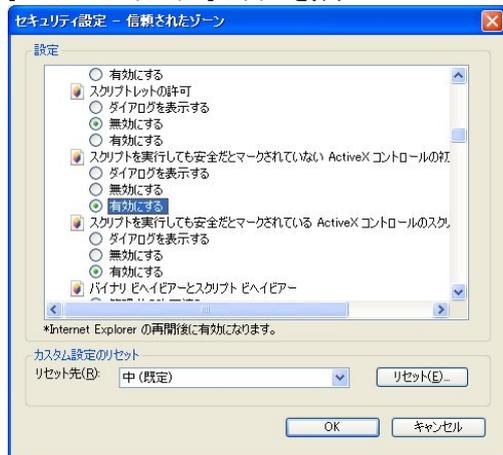


[サイト]のボタンを押す



- ・[このゾーンのサイトには全てサーバーの確認(https:)を必要とする]のチェックを外す
- ・[この Web サイトをゾーンに追加する] からサーバーのアドレスを追加
- ・[閉じる]ボタンを押す

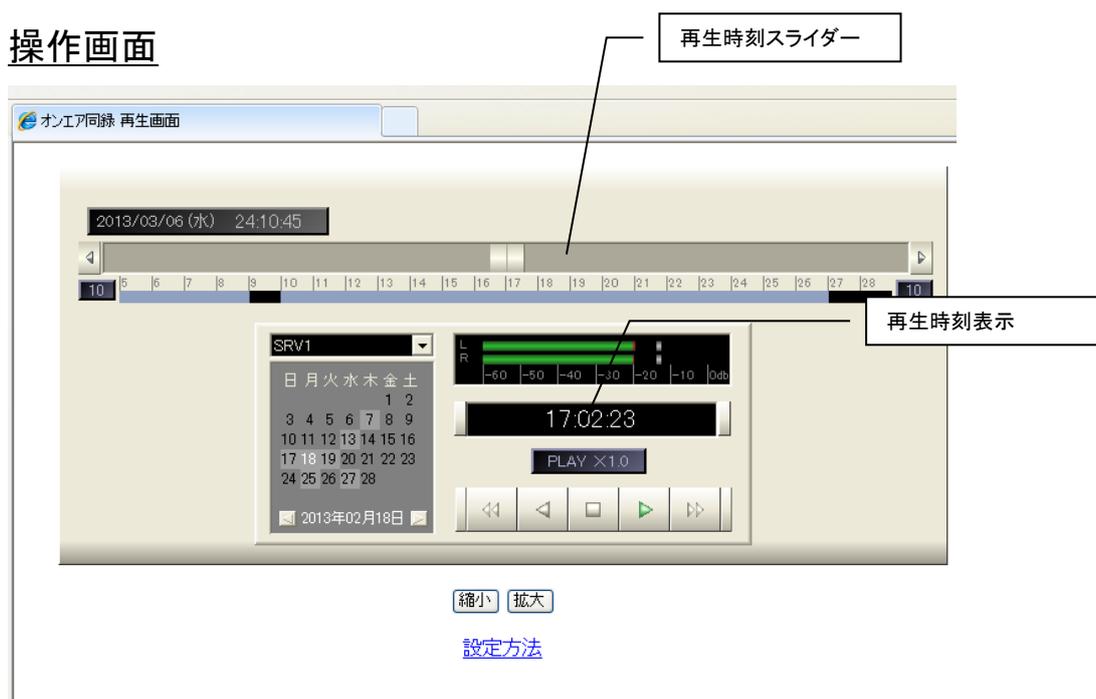
[レベルのカスタマイズ]のボタンを押す



- [スクリプトを実行しても安全だとマークされていない ActiveX コントロールの初期化と実行]を有効
- [OK]ボタンを押す
- [OK]ボタンを押す

※設定変更が出来たら一旦ブラウザを終了します。初回実行時はエラーが発生することがあります。

操作画面



再生

1. 画面左のドロップダウンリストで接続したいサーバーを選択します。
その下のカレンダーにはそのサーバーで録音されている日付がハイライトされているはずで
2. カレンダーで再生させたい日付をクリックします。または日付をクリックするとキーボード入力が可能です。日付の両脇の矢印で月を移動します。
横に長い録音データスケールに録音済み範囲が青く表示されます。終日録音されている場合はバー全てが青になります。
3. 再生時刻スライダーをドラッグして時刻を指定します。このスライダーは全体で 24 時間を示しています。
スライダーの両端の両矢印  は微調整です。この矢印をクリックしたときの移動量は、その下の[10 秒]または[30 秒]または[60 秒]と表示されているワク  をクリックすることで順次切り替わります。
4. 右向きの矢印の再生ボタンを押します。
5. または画面中央の再生時刻表示をクリックして時刻を 120000 のように入力して Enter を押すとその時刻から再生します。

[拡大][縮小]ボタンを押すことで画面の表示サイズを切り替えることが出来ます。この設定は終了時に保存されます。
設定方法のページを開くをセキュリティ設定変更のガイドが表示されます。

※ブラウザ画面を閉じるときは再生を終了してから操作を行ってください。

6. AirDist webページ作成ソフトウェア

セットアップ

動作環境

Windows7/8.1/10 で使用することをお勧めします。

インストール

1. CD の内容を適当なフォルダにコピーします。
全てのファイルの属性から読取専用を解除します。
2. このアプリケーションはオーディオの取り扱いは行いません。
3. ライセンス管理は AirPlay に準じます。AirPlay を同じ PC にインストールしてください。
airdist.exe がアプリケーション本体です。

機能

AirPlay のオートマージで使用できる 3 項目を仮に[番組名]、[スポンサー名]、[代理店名]と割り当てます。

AirPlay のオートマージ機能により「番組名¥2018-05-18 11_00_00[番組名][スポンサー名][代理店名].mp3」というファイルがマージサーバーフォルダ以下に自動作成されます。

(ここまでは AirPlay 機能です)

AirDist ではこのマージサーバーフォルダを監視し、新しい mp3 ファイルを発見したら html ページの再作成を行います。

3 つの項目が合致した mp3 ファイル名を持つものを 1 ページ内に納めます。

管理用に、すべてのページの URL リンクを記載したページも作成/更新します。

ブラウザ画面のリンクをクリックするとメディアプレイヤー等が起動して mp3 再生が開始されます。

リンクを右クリックから mp3 のダウンロードも可能ですが、これは禁止することもできます。

※ネット上での公開のためには別途 FTP アップロード等に対応した web サーバーを用意する必要があります。

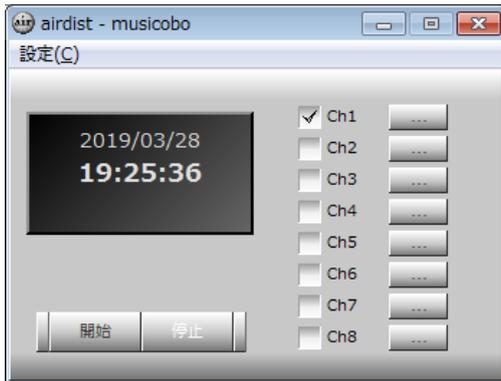
普通の web ページ用の web スペースサービスでも FTP アップロード対応であれば大丈夫です。

出力フォルダと web サーバーとの同期には汎用の FTP アプリなどを利用します。

出力された html ページイメージ



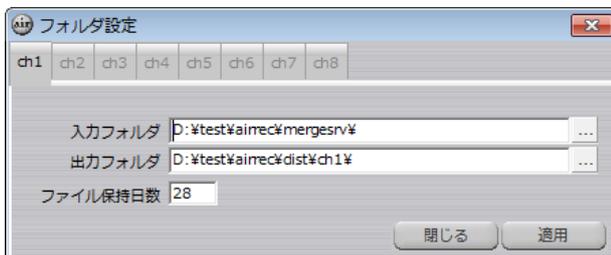
画面



[Ch1]	動作を有効にする系統を選択します。 8 系統まで使用できるよう設計されていますが、通常は Ch1 のみ使用します。 複数の AirPlay のマージサーバーフォルダを参照する場合は別の ch を使用します。
(参照ボタン)	設定されている入力/出力フォルダを表示します。
[開始]/[停止]	処理を開始します。 開始時には録音データやバックアップサーバーへの同期と html ページ作成などの一通りの処理を行います。

各種設定

フォルダ設定



メニューの[設定]→[フォルダ設定]を選択するとフォルダ設定画面が表示されます。

入力フォルダ	AirPlay の[オートマージ]→[マージサーバーフォルダ]と同じフォルダを指定します。
出力フォルダ	作成する html と mp3 を出力するフォルダを指定します。 このフォルダと公開 web サーバーを FTP などで同期します。
ファイル保持日数	出力フォルダ内のデータの保持日数です。

詳細設定

メニューの[設定]→[詳細設定]を選択すると詳細設定画面が表示されます。

起動時に処理開始	アプリケーション起動時に、処理開始します。 スタートアップに AirDist を入れておくと PC リセット時に処理開始できます。
日毎処理オフセット	一日一回処理するプロセスの作動時刻。1日の開始時刻の指定秒後に実行します。
1日の開始時刻	050000を指定すると1日は5時から28:59:59までとなります。録音PC側と合わせないと正しく動作しないことがあります。
ダウンロード禁止	生成されるhtmlページにて右クリックを無効にします。
download.php 使用	特殊用途です。
音声サブフォルダ	音声をhtmlデータの下の階層に置きたい場合は指定します。
項目名	AirPlayのオートマージ設定にあわせませす。